

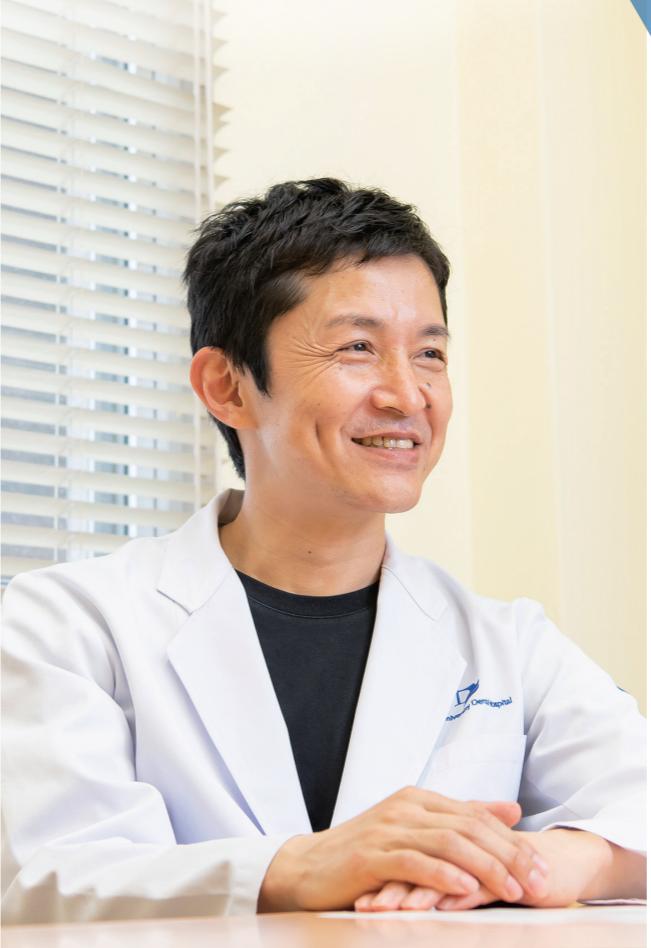
摂食嚥下臨床の現場にみる医療の可能性

「後編」

医療の現場から

from the medical front

Interview with
Kanji
Nohara



食事や水分などがうまく食べられない・飲み込めない状態を「摂食嚥下障害」という。口腔・摂食嚥下機能の衰えによるむせや全身の機能低下による誤嚥性肺炎など、高齢者の摂食嚥下障害の問題は様々な要因疾患とともに複雑化する。摂食嚥下障害の原因を鑑別し、今ある機能を見極めて提示することが大事と話すのは、発音障害と摂食嚥下障害を専門とする大阪大学大学院歯学研究科准教授の歯科医師野原幹司氏だ。前編では、薬剤性嚥下障害の本を上梓するに至った背景などを伺った。後編では、今ある機能を見極めて医療者としてじっくりと患者と向き合う野原氏の考え方や生活の質を維持・向上させるケアのあり方についてお話を伺う。

今ある機能を見極めて 提示することが大事

摂食嚥下障害の学問分野の歴史は浅い。前編で触れたとおり、研究の歴史が短いがゆえに、臨床の現場では混乱がみられるのが実状だと野原氏はいう。

「摂食嚥下障害は病名ではありません。『むせる』、『食べこぼす』などに付けられる症状名です。症状に対して対処法やリハビリテーションが主とされてきたことで、摂食嚥下障害は訓練すれば治るものという認識が臨床の現場ではいまだにみられます。

そうした方法論ではなく、症状の原因疾患に応じた診断や対応をすることが必要です。今ある機能を見極めて、どれくらい安全に食べられるかを提示してあげることが大事なんです」

野原氏は、患者に対して医学的なパックグラウンドをふまえたうえで説明することを常に意識していると話す。

「例ですが、外来には脳卒中が起きて10年経つ方や、ALSのような治らない可能性の高い患者さん多く来られます。それでも、患者さんやご家族の主訴はやっぱり『治してほしい』ということなんですね。そこで、私たち医者が『治らない』とは言えないので、患者さんにとっての頼りがないですよね。患者さんにとっての頼りがなくなってしまう。一人ひとり原因疾患はも

ちろん違いますから。患者さんの納得のいくような医学的なストーリーを紡ぎ出させて納得していただくのも医者の仕事。『治してほしい』と口にはしていますが、本当は納得したいのだと思います。医学的なパックグラウンドをちゃんと踏まえた上で、説明してあげることで、多くの患者さんやご家族は納得してくださいます」

さまたまな専門家の目で 境界領域に入りこむことが理想

2020年に薬剤と嚥下障害や食支援をベースにまとめた本を上梓した野原氏だが、その本の狙いのひとつは、「境界領域に複数の専門家の目が届くこと」でもあつた。

「薬剤による嚥下機能改善や薬剤性嚥下障害については、少しずつ有効な研究や報告がはじめています。一方で、臨床の場においては薬剤師が介入することなく、訓練や食支援をベースに医療職を中心となっていることがほとんどです。嚥下リハと薬剤の専門家が別々に存在していることではないと思っています。これは摂食嚥下障害の分野に限らずの話で、医療界では、『境界領域』という言い方をしますが、専門家同

この1冊で 誤嚥性肺炎予防&治療 摂食嚥下リハ 薬物療法 (認知症、パーキンソン病、COPD、気管支喘息、脳卒中) 服薬管理 の すべてがうまくいく!



医療の現場から

from the medical front

「治らない疾患症状を受け止め
て次善の策を提案し続ける
治療の現場から」

士が領域を棲み分けてしまうんですね。それは患者さんにとってはまったくプラスになりました。境界領域を取り合うのではなく、むしろいろんな専門家の目で境界領域を見られることができます。だからもっと嚥下のこと、薬剤のこと興味を持つて専門家同士が団々しく入っていくような境界領域になることが望ましい。さまざまな専門家が「薬剤からみた嚥下リハ」と「嚥下リハからみた薬剤」に取り組んではいると思っています」

野原氏は、本を読んだ薬剤師からの反響も大きかったと話す。「これまで、薬剤師さんにとって、摂食嚥下障害といふと『訓練して治すもの』、『看護師さん、言語聴覚士さんの領域でしよう』という、領域外という意識が強かつたことも確かです。その認識が、薬剤性嚥下障害と明確にいうようになってから、薬剤師の方の問題意識が高まったというのは実感としてあります」

野原氏は、本を読んだ薬剤師からの反響も大きかったと話す。「これまで、薬剤師さんにとって、摂食嚥下障害といふと『訓練して治すもの』、『看護師さん、言語

聴覚士さんの領域でしよう』という、領域外という意識が強かつたことも確かです。その認識が、薬剤性嚥下障害と明確にいうようになってから、薬剤師の方の問題

意識が高まったというのは実感としてあ

ります」

野原氏は、本を読んだ薬剤師からの反響も大きかったと話す。「これまで、薬剤師さんにとって、摂食嚥下障害といふと『訓練して治すもの』、『看護師さん、言語

聴覚士さんの領域でしよう』という、領域

外という意識が強かつたことも確かです。その認識が、薬剤性嚥下障害と明確に

いうようになってから、薬剤師の方の問題

意識が高まったというのは実感としてあ

ります」

野原氏は、本を読んだ薬剤師からの反

響も大きかったと話す。「これまで、薬剤

師さんにとって、摂食嚥下障害といふと

『訓練して治すもの』、『看護師さん、言語

聴覚士さんの領域でしよう』という、領域

外という意識が強かつたことも確かです。その認識が、薬剤性嚥下障害と明確に

いうようになってから、薬剤師の方の問題

意識が高まったというのは実感としてあ

ります」

野原氏は、本を読んだ薬剤師からの反

響も大きかったと話す。「これまで、薬剤

師さんにとって、摂食嚥下障害といふと

『訓練して治すもの』、『看護師さん、言語

聴覚士さんの領域でしよう』という、領域

外という意識が強かつたことも確かです。その認識が、薬剤性嚥下障害と明確に

いうようになってから、薬剤師の方の問題

意識が高まったというのは実感としてあ

ります」

野原氏は、本を読んだ薬剤師からの反

響も大きかったと話す。「これまで、薬剤

師さんにとって、摂食嚥下障害といふと

『訓練して治すもの』、『看護師さん、言語

聴覚士さんの領域でしよう』という、領域

外という意識が強かつたことも確かです。その認識が、薬剤性嚥下障害と明確に

いうようになってから、薬剤師の方の問題

意識が高まったというのは実感としてあ

ります」

野原氏は、本を読んだ薬剤師からの反

響も大きかったと話す。「これまで、薬剤

師さんにとって、摂食嚥下障害といふと

『訓練して治すもの』、『看護師さん、言語

聴覚士さんの領域でしよう』という、領域

外という意識が強かつたことも確かです。その認識が、薬剤性嚥下障害と明確に

いうようになってから、薬剤師の方の問題

意識が高まったというのは実感としてあ

ります」

野原氏は、本を読んだ薬剤師からの反

響も大きかったと話す。「これまで、薬剤

師さんにとって、摂食嚥下障害といふと

『訓練して治すもの』、『看護師さん、言語

聴覚士さんの領域でしよう』という、領域

外という意識が強かつたことも確かです。その認識が、薬剤性嚥下障害と明確に

いうようになってから、薬剤師の方の問題

意識が高まったというのは実感としてあ

ります」

野原氏は、本を読んだ薬剤師からの反

響も大きかったと話す。「これまで、薬剤

師さんにとって、摂食嚥下障害といふと

『訓練して治すもの』、『看護師さん、言語

聴覚士さんの領域でしよう』という、領域

外という意識が強かつたことも確かです。その認識が、薬剤性嚥下障害と明確に

いうようになってから、薬剤師の方の問題

意識が高まったというのは実感としてあ

ります」

野原氏は、本を読んだ薬剤師からの反

響も大きかったと話す。「これまで、薬剤

師さんにとって、摂食嚥下障害といふと

『訓練して治すもの』、『看護師さん、言語

聴覚士さんの領域でしよう』という、領域

外という意識が強かつたことも確かです。その認識が、薬剤性嚥下障害と明確に

いうようになってから、薬剤師の方の問題

意識が高まったというのは実感としてあ

ります」

野原氏は、本を読んだ薬剤師からの反

響も大きかったと話す。「これまで、薬剤

師さんにとって、摂食嚥下障害といふと

『訓練して治すもの』、『看護師さん、言語

聴覚士さんの領域でしよう』という、領域

外という意識が強かつたことも確かです。その認識が、薬剤性嚥下障害と明確に

いうようになってから、薬剤師の方の問題

意識が高まったというのは実感としてあ

ります」

野原氏は、本を読んだ薬剤師からの反

響も大きかったと話す。「これまで、薬剤

師さんにとって、摂食嚥下障害といふと

『訓練して治すもの』、『看護師さん、言語

聴覚士さんの領域でしよう』という、領域

外という意識が強かつたことも確かです。その認識が、薬剤性嚥下障害と明確に

いうようになってから、薬剤師の方の問題

意識が高まったというのは実感としてあ

ります」

野原氏は、本を読んだ薬剤師からの反

響も大きかったと話す。「これまで、薬剤

師さんにとって、摂食嚥下障害といふと

『訓練して治すもの』、『看護師さん、言語

聴覚士さんの領域でしよう』という、領域

外という意識が強かつたことも確かです。その認識が、薬剤性嚥下障害と明確に

いうようになってから、薬剤師の方の問題

意識が高まったというのは実感としてあ

ります」

野原氏は、本を読んだ薬剤師からの反

響も大きかったと話す。「これまで、薬剤

師さんにとって、摂食嚥下障害といふと

『訓練して治すもの』、『看護師さん、言語

聴覚士さんの領域でしよう』という、領域

外という意識が強かつたことも確かです。その認識が、薬剤性嚥下障害と明確に

いうようになってから、薬剤師の方の問題

意識が高まったというのは実感としてあ

ります」

野原氏は、本を読んだ薬剤師からの反

響も大きかったと話す。「これまで、薬剤

師さんにとって、摂食嚥下障害といふと

『訓練して治すもの』、『看護師さん、言語

聴覚士さんの領域でしよう』という、領域

外という意識が強かつたことも確かです。その認識が、薬剤性嚥下障害と明確に